

# ウェディングブーケの技術向上

花き装飾コース 伊藤芽衣  
(指導教員: 吉田久美子)

## 1. はじめに

内定先である株式会社サトウ花店のウェディングブーケの制作方法をテーマとし、即戦力となるための技術向上を目標とした。まず、基本的な技術を習得してから参考となるデザインをもとにブーケの組み方や必要なワイヤリング技術を使用し制作した。

## 2. 制作手順

1 参考画像からデザイン決定、2 花材決め、3 市場仕入れ、4 制作、5 担当教官による指導、6 再度制作を繰り返した。

## 3. 制作

### (1) ボールブーケ(ボールオアシス)

			
1回目	2回目	3回目	4回目
右上がへこんでしまった。空間が空きオアシスが見えてしまった。	マムでアウトラインを取ったことで丸くなりスイートピーを入れ空間を埋めた。	グルーピングをすることで空間が埋まった。スイートピーが出すぎた。	スイートピーとマムを同じ高さにした。ボールの形状がはつきりした。

### (2) バレリーナブーケ(クラッチ)

			
1回目	2回目	3回目	4回目
シンビジュムが重い印象で、向きがそろっていない。	シンビジュムを枝とワイヤリングした一輪に分けた。空間が多い。	ドラセナを入れたことで空間が埋まった。トーンが同じで花一輪一輪が目立たない。	トーンの違うラナンキュラスなどを入れたことでメリハリ感が出た。

### (3)ユリキャスケードブーケ(ブライダル)

	<p>sp カーネーションと sp バラは学校で習ったものと同じ手法の#24 ピアスマソード。</p> <p>サトウ花店ではグリーンとフィラフラワー以外は全てワイヤリングする。</p> <p>ブライダルにワイヤーをフックさせて花が落ちないようにしている。</p> <p>授業ではアウトラインを取りそこから埋めていく方法でしたが、今回はガーランドから順に花を埋めていく方法で行った。</p>
	<p>ユリは対になる花弁を#24 クロスマソードでワイヤリングをする。</p> <p>サトウ花店のユリを使うキャスケードは、3輪と決められている。</p> <p>配置も三角形になるようにする。また、ユリの向きに気を付けながら行う。</p> <p>形を見る際は、鏡を使用し何度も確認をする。</p> <p>sp バラと sp カーネーションを交互に挿すことでバランスをとる。</p> <p>グリーンとフィラフラワーは花の量を調整しながら挿していく。</p>

## 4. まとめ

ブーケの種類や構成、花材の扱い方、下準備の重要性など、制作における基礎的な工程やウェディングブーケにおいて重要なサトウ花店のワイヤリング技術を身につけることが出来た。技術力だけでなく判断力や応用力、ウェディングブーケに必要な技術と姿勢を身につけることも出来た。ブーケの組み方については、基本的な1点集中はもちろん今まで授業で学んだ知識が活かされていることを改めて実感した。完成度の高いブーケを作るためには土台となる基礎技術が必要不可欠となる。ワイヤリングは花材の動きを自在に調整し、ブーケ全体の完成度を高めるためには欠かせない基礎技術だと思う。見た目の美しさだけでなく、耐久性や安全性も求められる重要な工程で、ブーケのデザインやテーマによってもワイヤリングの方法を変える必要があると感じた。これらの経験を通してウェディングブーケとワイヤリングの技術が向上できたのではないかと思った。ウェディングブーケ制作を通して、ウェディングブーケの奥深さや楽しさを知れた。今後は、ウェディング装花におけるワイヤリング技術向上をさらに磨き、新郎新婦様に寄り添った提案をしていきたい。